Rural Mission
Human Rights
農
農村伝道神学校後援会だより　NO. 106

“辺境”にて学舎を思う

信濃村教会牧師　稲垣　真実

2005年、卒業年次。当時の君島校長に任地の希望を尋ねられ、軽い気持ちで「山のある地」と答えて紹介されたのが、長野県と新潟県の県境、信濃町にある信濃村伝道所（2010年に第二種教会、信濃村教会と改称）だった。黒姫、妙高、戸隠といった二千メートル級の山々に囲まれた山里であり、清水恵三牧師が「辺境通信」を認めた地だ。始めてこの地を踏んだ時、想像以上の山々に圧倒され、極端だなおいとでも校長に小言を言ってやりたい思いに駆られたわけだが、幸いにも先方からの断りの連絡はなく、招聘を受けこの地に仕える次第となった。

この地にキリスト教が伝わったのは1920年、上流化した軽井沢を逃れてダニエル・ノルマンをはじめとする宣教師たちが、新たな避暑地をこの地に求めたことから始まる。宣教師たちは野尻湖畔に宣教師村（NLA＝Nojiri Lake Association）を形成し、農村伝道神学校の創設者となるアルフレッド・ラッセル・ストーン宣教師らを中心とした農村伝道が展開された。野尻湖畔には今もストーン宣教師の記念碑があり、農家への新品種のトウモロコシを紹介したことや、当時廃れかけていた鎌製造の近代化による再興に師が尽力されたことが記されている。それは“よそから来たお客さん”に為し得る働きではないだろう。一人の住人として地域の人々と交わり、苦楽を共にしたストーン宣教師の姿が垣間見える。

『伝道』と言う言葉は、とかく教勢を伸ばす、教会員を増やすといった文脈で使われがちだが、ストーン宣教師が志した『農村伝道』はそのようなせせこましいものではない。この後援会便りをご覧の方々には周知のことであろうが、自らの領域に人々を引き入れるのではなく、自らが人々の中へと入って行くことこそが『農村伝道』であり、『伝道』の本質なのではないだろうか。…などと在学中の私を知る人がこれを読んだなら「何を偉そうに」と鼻で笑うことだろう。

筆者とYMCA野尻キャンプ場にて

農村伝道神学校に在学中、経営難から学校用地の売却話が持ち上がり、校長が二度交替するなど迷走に迷走を重ねていた。学生会は学生会で学校経営における無力さを味わい、次第に「自分のことだけで精一杯」と言った後ろ向きな声が大きくなっていったように思う。当時の関係者には異論が多々あるだろうが、一学生であった私の目には内側にばかり目を向ける集団が腐っていく如くに映り、学生会を離れるに至った。今思えば、こうした時代に在学したことも得難い経験であったと感じてはいるが、今の、そしてこれからの学生たちには出来ることなら経験してもらいたくないものである。

神学校経営の困難さなど及びもつかぬ者の無責任な言葉になるが、ストーン宣教師の描いた『農村伝道』の志を持った牧会者を世に送り出すために、経営陣にはこれからも奮闘を願い、その働きの上に祝福を祈る。

この原稿依頼を受けるに際し、どうして愛校心などとうに失った私に…と戸惑ったが、当時を振り返り整理する良い機会となった。

末筆ながら編集委員の方々に感謝を申し上げる。（了）

教会写生風景

「一人の神学生を何人かで支える」
ー奨学金献金活動の喜びー

埼玉和光教会　大　沼　洋　美

埼玉和光教会の皆様

埼玉和光教会が「奨学金献金」を始めて、今年で３２年目を迎えました。始まりは、１９８４年、農村伝道神学校國安敬二校長先生の名で、教会宛てに「奨学金に関するお願い」の文書が届きました。お願いとして奨学金制度を充実して、学生の勉学を援助したいと願っています。来年からの充実のため、一人の神学生を何人かの方で支える活動を展開し援助頂きたい、との緊急を要する依頼でした。

山田四嘉三牧師（農村伝道神神学校出身）を中心とする役員会は、学校からの要請を深く受け止め、即、行動に移しました。「宣べ伝える者がいなくては、どうして聞くことがあろうか。つかわされなくては、どうして宣べ伝えることがあろうか」（１９５５年改訳版ローマ人への手紙１０：１４，１５）のみ言を示されて、一人の神学生の年間授業料１２万円という具体的な呼びかけに教会員は快く協力してくれました。〈一口月額１００円、何口でも可〉ということでスタートした活動は、初年から必要額が満たされ、後援会にも献金出来るようになり、今日に至っています。

私達の教会は、毎年神学校日を心待ちにしています。それは農村伝道神学校から遣わされて来る神学生を身近に感じ、自分達の祈りと献金が見えるかたちで用いられているという喜びがあるからです。やがて宣教の地へと派遣される神学生が、真摯にみ言をとりついで下さっている姿に心打たれ、み言が深く心に響いてくるのを感じる日でもあります。また、今まで埼玉和光教会で語って下さった神学生達が、現在全国各地につかわされ宣教の業に励んでいる姿を想像し、親しさを覚えつつ祈ることが出来る恵みを感謝しています。

この献金担当は、伝道部の者が代々交替で務めて来ましたが、今は私が担当しています。後援会だより会計報告を読ませていただく時、農村伝道神学校が全国の多くの教会、諸団体、学校そして個人の方々からの尊い献金に支えられていることに驚き心を熱くさせられます。そこで気づいたことは「奨学金献金」についてはあまり知られていないのではないということです。奨学金献金について知って頂くために、私が神学校と共にあった保育科の卒業生という関係で、今回後援会だよりの紙面をいただくことになり、感謝しております。

当時（５０数年前）、山の上はとても賑やかでした。神学科、保育科、農業研修科、東南アジアコース、と多くの学生で活気に満ちていました。職員の方々も敷地内にお住まいでした。全寮制で朝昼晩の食堂での交流、様々な行事への参加、何よりたいせつにしていたのが毎朝授業前の礼拝で神学生が交替で説教をしていたことなど懐かしく思い出します。残念なことに保育科は１８回生までで経営面やその他の事情で廃科になってしまいましたが、今でも山の上で学び、養われた多くの事柄が全国各地につかわされ同級生の底力となっていることは確かなことです。牧師を支える人、教会の奉仕をする人、保育の職場で責任を以て働いている人、地域で社会教育にたずさわる人など、神様は常に用いて下さっていることを、同窓会だよりなどを通してしることができます。保育科廃止後何十年たっても、各地に散らされた同窓生達は、日々農村伝道神学校の大切な働きのために神様の祝福とお導きを祈り続けていると思います。

数年前の神学校日のことでした。礼拝後の昼食懇談会の折、神学生の学校での学びの様子や日常生活の話を聞いていた一人の教会員が「小さい学校で大変でしょうが、灯が消えないよう頑張って下さい。」とはげましの言葉を述べましたら、「小さい学校だからいいのです！。」と背筋を伸ばして誇らしげに言い切った神学生に心を打たれました。

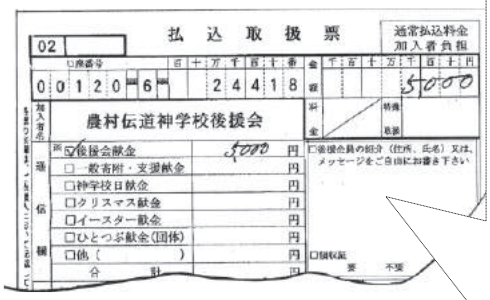
私はここ数年農村伝道神学校の入学式と卒業式に出席することが多くなりました。ある入学式の折の高柳校長先生の式辞が先に記した神学生の言葉と重なって、心に残っております。「神と人と大地とそして教会に仕える伝道者養成のために、教師も学生も共同作業をしています。日本で最も小さい神学校だと思いますが、私達は学生一人一人を心から大切に思い、良き羊飼いを育てるため学校経営の労苦を喜びと感じ祈りつつ、全国の教会、諸団体、学校、そして個人の方々の支えをありがたく心強く励まされています。」と。

（昨年の神学校日懇談会で）

このような神学校で「小さいからいいのです」と言い切って学んでいる神学生の学びの援助を続けてこられたのが、埼玉和光教会の活動が、ただ献金をし続けているのではなく、教会員一人一人が農村伝道神学校の尊い働きに共に与らせていただいているという喜びがあるからだと思っています。〈一人の神学生を何人かで支える〉奨学金献金のことを、一人でも多くの方が覚えて下されば と願いつつ記させていただきました。

＊参考　一人年間授業料　’12～’15　18万円
　　’16～　24万円

農村伝道神学校後援会をお支え頂くみなさまからの尊いメッセージを仕訳しました（事務局）



献金を頂く郵便局の払込伝票を毎年、年度末には何かの間違いがないか全点チェックし保管しますが、この伝票には学校へのメッセージをご自由に書いて頂く欄があります。 ある方の一文に目が留まりました。この方はご高齢で一人住まい、長く農伝を支えて下さっているいわば農伝支援第一世代の方で毎回、「***元気で教会に行っています***」との一文が添えられている方ですが、今年の一文には「***娘の家に共に、、***」とありました。お元気か気になり一昨年前の綴りを確認、「***娘と同居し、2時間掛けて教会に出席、元気、感謝***」とあり、「***元気で教会に、、、***」は3年前の一文でした。農伝を支えて下さる方々のご健康を祈りつつ、改めて皆様の大事な→

→ メッセージの**過去3年間再を点検し後援会活動への指針課題**としたく仕訳を致しました。

1、 3年間の献金振込件数は　2705件　1年間平均件数は 902件

2、 何らかのメッセージを頂いた件数は　195件　全体の約7%

3、 この内、住所変更訂正などのご連絡は　88件　住所、氏名などメンテナンスに注意慎重処置励行

4、 195件－88件＝107件の内容を仕訳し、メッセージから後援会活動への指針課題を探りました。

107件の内容

①	派遣神学生、講師教師への支持 支援、発行文書賛意 支援販売益献金など	38件	全体の35%	努力研鑽、向上継続
②	年金暮らし、高齢文書が読めない などで会員脱会	11件	全体の9%	
③	父、母昇天今回代理献金、会員脱会	13件	全体の12%	24件21%の方が脱会
④	誕生、退職、米寿、昇天など記念感謝	8件	全体の7%	
⑤	高齢、体調不良、病床、支援を頑張る	20件	全体の20%	
⑥	父、母昇天、農伝支援を引き継ぐ	7件	全体の7%	11件11%の世代引き継ぎと新規後援会員
⑦	友人紹介など新規会員加入	4件	全体の4%	
⑧	園児献金、諸活動など、献金、販売	6件	全体の6%	

⇨ お書き頂いているメッセージは全体の7%ですが、②③の後援会脱会が、⑥⑦の次世代への継承や友人紹介より多いことに注視し、現世代から次世代へ、友人から友人へ農伝を覚え、ご理解頂く活動が大きな課題であることを改めて確認しました。農村伝道神学校の「農の神学」の根底である「三愛精神」（神を愛し、人を愛し、土を愛する）の実践と神学校を更に知って頂き、ご支援戴く世代の引き継ぎと支援の輪の拡大を願う後援会活動 へ 厳しいご示唆を頂きました。また聞かせて下さい。皆様の声を「***少額ですがお役に立てれば、、***」、「***農村伝道のために祈りつつ***」等々。感謝

2016年度　農村伝道神学校後援会会計報告

2016年６月1日～８月31日（　）内の数字は回数で、金額はその合計です。

後援会献金（団体）

認定こども園栄冠幼稚園 10,000
希望ヶ丘教会 10,000
下谷教会婦人会 20,000
丹波新生教会 10,000
取手伝道所 5,000
東中野教会社会委員会 5,000
合計6件
金額 60,000

後援会献金（個人）

新　清緑 10,000
井口　拓人 4,000(8)
池田　伯 10,000
伊藤　誠之 10,000
井上したふ 3,000
岩間美佐子 3,000
牛島　洋子 2,000
牛田　匡 2,000
大浦　邦子 3,000
大澤　錦一 30,000
岡本　駒子 10,000
小原　敏 10,000
加藤真規子 10,000
上内　鏡子 2,000
河本めぐみ 3,000
許　照善 3,000
桑野　直義 5,000
桑畑　祥生 5,000
小泉　晴子 3,000
河野　通久 5,000
越石　利明 5,000
後藤美紀子 5,000
小畑　太作 1,000
近藤　淑子 3,000
近藤　康夫 5,000
佐々木喬敏 3,000
佐々木良健 10,000
三宮　千枝 3,000
嶋貫　春江 3,000
須部　道子 3,000
酢屋　善元 2,000
関田　寛雄 10,000
関本　達也 2,000(2)
孫　裕久 10,000
高柳めぐみ 5,000
竹村　倫子 20,000(2)
田中　佑幸 10,000
月本　昭男 5,000
中川紀代子 2,000
西崎　和義 500
西村保與子・博美 15,000
野崎　典子 10,000
八田満千子 10,000
原　誠 5,000
平本　順子 10,000
福澤　益代 15,000(3)
福島　静代 1,000
福本　光子 10,000
松田　陽子 30,000
松本眞理子 5,000
峰晴　玲子 5,000
三輪　清子 3,000
宗宮　進 3,000
森永　肇子 2,000
保田　茂 3,000
柳　和吉 3,000
匿名 5,000
合計68件
金額 375,500

記念日他献金（団体）

國安先生を囲む会 6,368
敦賀教会 5,000
日本基督教団西東京教区婦人委員会 10,000
洛南教会 5,000
合計4件
金額 26,368

記念日他献金（個人）

浅野　直人 5,000
東　昌子 3,000
上西知子・哲雄 3,000
遠藤　勇 5,000
遠藤　勇司 10,000
大久保洋子 10,000
太田　春夫 3,000
岡本　克子 5,000
川崎　トシ 5,000
河原田美哉子 5,000
北沢　栄 3,000
木田みな子 5,000
木下　良子 5,000
吉良　保子 5,000
小林利明・恒子 3,000
小柳　伸顕 3,000
近藤恵・華子 5,000
坂井　敏子 1,000
佐々木ちじゑ 1,000
澤田　眞 50,000
鈴木　一宏 5,000
園田　博 3,000
高倉謙次・田鶴子 2,000
高島　昭子 3,000
武村　理雪 30,000
月本　昭男 5,000
辻井武志・嗣子 3,000
津村有紀子 5,000
中村千恵子 20,000
服部千賀子 5,000
比企　敦子 5,000
人見　勝 5,000
平田由喜子 10,000
宏井　牧子 3,000
福居　幸子 5,000
増田　陽一 20,000
丸山　是 3,000
三宅　洸子 5,000
矢野宣和・りりこ 10,000
山田美知子 5,000
山本　美保 5,000
劉　富敬 20,000
合計42件
金額 312,000

ひとつぶ献金

生田教会 78,700
軽井沢追分教会 41,000
鶴川北教会 50,000
日野台教会 14,700
まぶね教会 10,400(2)
水元教会 10,800
合計7件
金額 205,600

事務局だより

◇後援会だより106号をお届け致しました。1ページには2005年度本校卒業（56回生同期8名）の稲垣真実牧師にご執筆頂きました。先生には事務局の手違いで、大変ご迷惑をお掛けし、一晩で原稿をお書き頂くような日程になってしまいました。誠に申訳ありませんでした。ご卒業から約2年半後にストーン記念館（校舎）が完成しました。それまでの寒い、暑い、教室で、難破船の帆のようなカーテンで日差しや寒風を避けながらの学びの日々であったであろうことが、ウソのような教室に変わりました。しかし校舎以外は何も変わらない今の農伝に、当時を振り返りに是非お出かけ下さい。

◇2頁の「神学生を何人かで支える」奨学金献金運動が32年も前に学校の要請によって始まり、脈々と続いていることに驚きました。（他の数教会も同様なお支えを頂いておりますがここにルーツがあることを知りました）しかも、この活動が今も年々活発になり続け、農伝の大きな支えとなっています。筆者の埼玉和光教会、大沼洋美さんは鶴川学院の理事でもあり、学校運営に大きな責任を担って頂いています。今回ご紹介頂いた活動が32年を超えて、更に新たな教会へ活動の広がりとなりますよう願っています。

◇また、3ページは、みなさまからの尊い献金に添えられているメッセージ欄から、後援会への声を伺いました。
この払込伝票はメッセージの有無に拘らず、後援会の日常業務として全点校長に見て頂き、献金を戴くみなさまの思いを伝えています。今回、年度末の伝票再点検の折、3ページ冒頭の見慣れたお名前に触れ、しかし文字のゆれが気になり、日常の慌ただしさで感じなかったことを反省しまし、遡って3年前のお元気なご様子に出会いました。このことをきっかけに3年間の払込伝票のメッセージを全て再確認し、みなさまの声を改めてお聞きし整理しました。みなさまの声が正しく要約、集合出来ておりませんが今後の方向をご示唆頂きました。

◇10月22日（土）恒例の農伝デーです。（同時発行の学報に詳細案内があります）後援会も出店しグッズを販売致します。従来の人気商品の他、新製品として陶器のペンダントなど研究試作中です。どうぞお出掛け下さいますようお願いします。

◇新年度に入り半年が過ぎようとしていますが8月までの状況を下記にご報告致します。前年同額の予算にて計画を立てておりますが、大変困難な状況となっています。多くのみなさまに支えられ引き続き学校を支援して参りたいと存じます。今後共お支えを宜しくお願い致します。　（後援会事務局　古川力也）

2016年度後援会会計報告

2016年4月1日～8月31日現在

収　入（献金・他）					前年同期比（%）
献金区分	2016年度（4月～8月）		前年度同期		
	件数	金額（円）	件数	金額（円）	
後援会費（団体）	14	522,066	10	439,600	118
〃（個人）	96	585,000	121	1,548,200	38
記念日他献金（団体）	10	86,368	7	44,396	195
〃（個人）	71	639,700	80	487,000	131
ひとつぶ献金（団体）	10	292,100	13	374,200	78
グッズ		30,050		39,850	77
合　計	201	2,155,284	231	2,933,246	73%

発行　農村伝道神学校後援会
会　長　島しづ子
事務局長　古川力也
〒195-0063 東京都町田市野津田町2024
TEL 042-735-5775　FAX 042-735-5711
E-メール：noden@pony.ocn.ne.jp
ホームページ：
http://www.noden.server-shared.com
振替番号　00120-6-24418